

朝食の欠食率についても若い世代が高い状況にある（20歳代男性は33.1%、女性は23.5%、30歳代男性は27.0%、女性は15.0%）（図1-2-38）。

64歳で73.1%、65～69歳で50.1%となっており、60歳を過ぎても、多くの高齢者が就業している。また、不就業者では、60～64歳の不就業者（26.9%）のうち3割以上の者が、65～69歳の不就業者（49.9%）のうち2割以上の者が、それぞれ就業を希望している。また、女性の就業者の割合は、55～59歳で61.6%、60～64歳で43.5%、65～69歳で28.2%となっている（図1-2-39）。

また、60歳以上の有職者の就業を希望する年齢についてみると、平成19（2007）年の意識調

#### 4 高齢者の就業

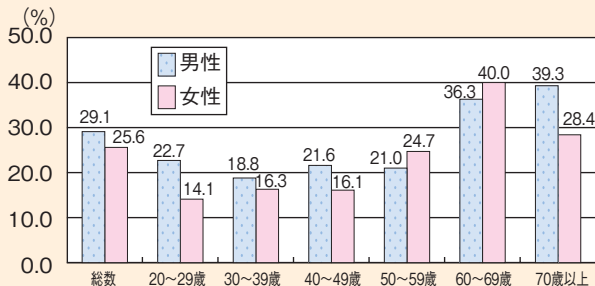
##### (1) 高齢者の就業状況

##### ア 60歳を過ぎても働く高齢者、働きたい高齢者は多い

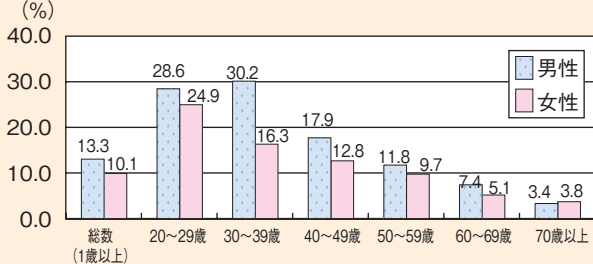
高齢者の就業状況についてみると、男性の場合、就業者の割合は、55～59歳で90.5%、60～

図1-2-38 年齢階級別にみた生活習慣の状況

(1) 運動習慣のある者の割合



(2) 朝食の欠食率

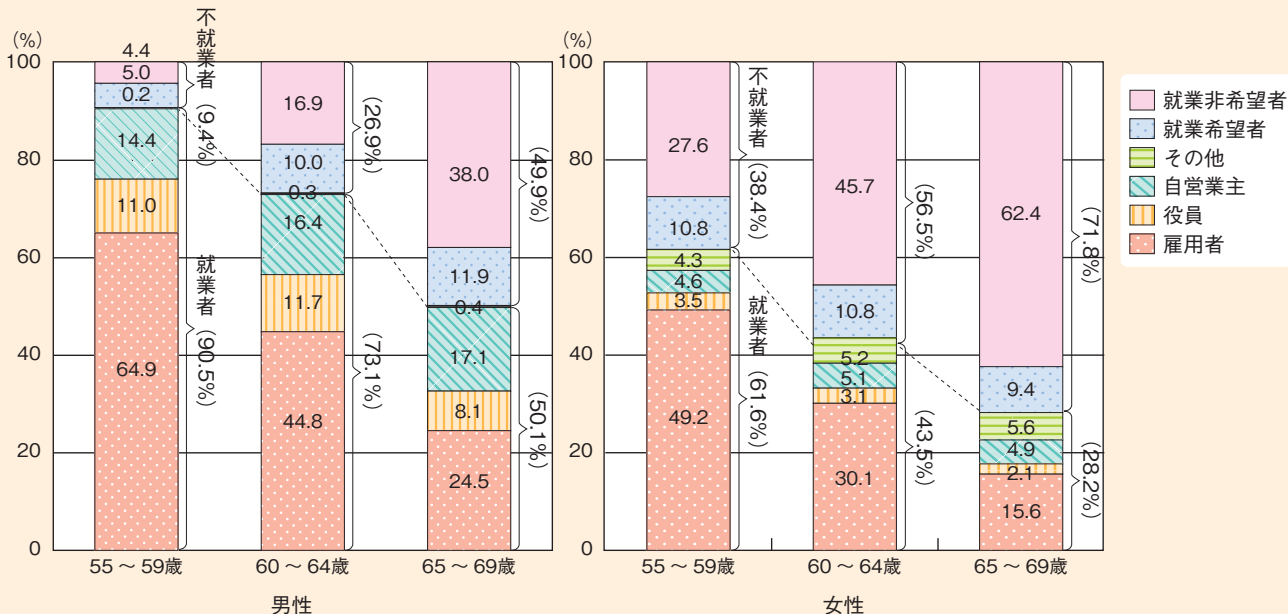


資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」(平成19年)より作成。

(注1)「運動習慣のある者」とは、1回30分以上の運動を週2日以上実施し、1年以上継続している者。

(注2)「欠食」は、①何も食べない(食事をしなかった場合)、②菓子、果物、乳製品、嗜好飲料などの食品のみ食べた場合、③錠剤・カプセル・顆粒状のビタミン・ミネラル、栄養ドリンク剤のみの場合、の3つの場合の合計。

図1-2-39 高齢者の就業・不就業状況



資料：総務省「就業構造基本調査」(平成19年)

査では、「働きたいうちはいつまでも」が41.2%であり、18年調査の34.1%から大幅に上昇した(図1-2-40)。

### イ 高齢者が就業を希望する理由は「健康を維持したい」が最多

高齢不就業者が就業を希望する理由をみると、男性は55~59歳で「失業している」の割合が52.5%と高いが、年齢階級が上がるにつれて大幅に減少し、「健康を維持したい」、「知識や技能を生かしたい」の割合が増加しており、65歳以上では「健康を維持したい」が30.6%と最も高くなっている。女性も、男性と同様、年齢階級が上がるにつれて「失業している」の割合が減少し、「健康を維持したい」の割合が増加している(表1-2-41)。

### ウ 60歳を境に非正規雇用が増加

高齢者の雇用形態についてみると、55~59歳では男性の74.9%、女性の37.6%が正規の職員・従業員となっているが、60~64歳で男性41.0%、女性25.8%、65~69歳で男性21.2%、女性24.3%と年齢が高まるとともに低下している(図1-2-42)。

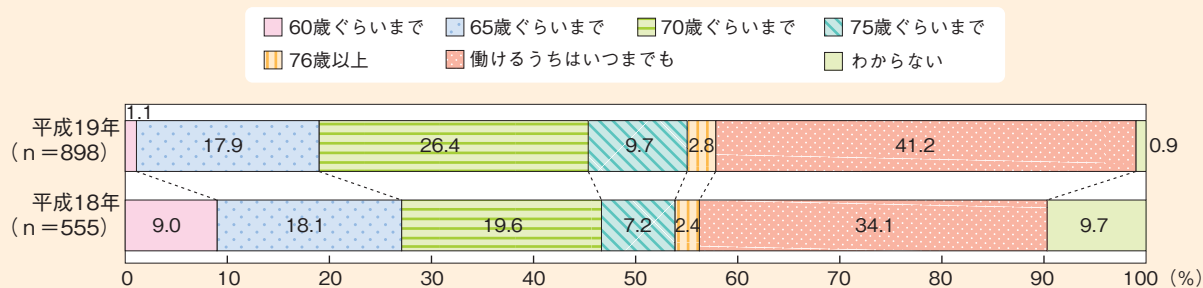
### (2) 高齢者の就業を取り巻く環境

#### ア 高齢者の雇用情勢は改善傾向で、就業率は60歳代前半で上昇

全産業の雇用者数の推移をみると、平成19(2007)年時点で、60~64歳の雇用者が352万人、65歳以上の雇用者が272万人と大幅に伸びている(図1-2-43)。

また、定年到達予定者等の状況をみると、定

図1-2-40 退職希望年齢



資料：内閣府「高齢者の健康に関する意識調査」(平成19年)  
調査対象：60歳以上の有職者

表1-2-41 高齢就業希望者の就業希望理由別割合

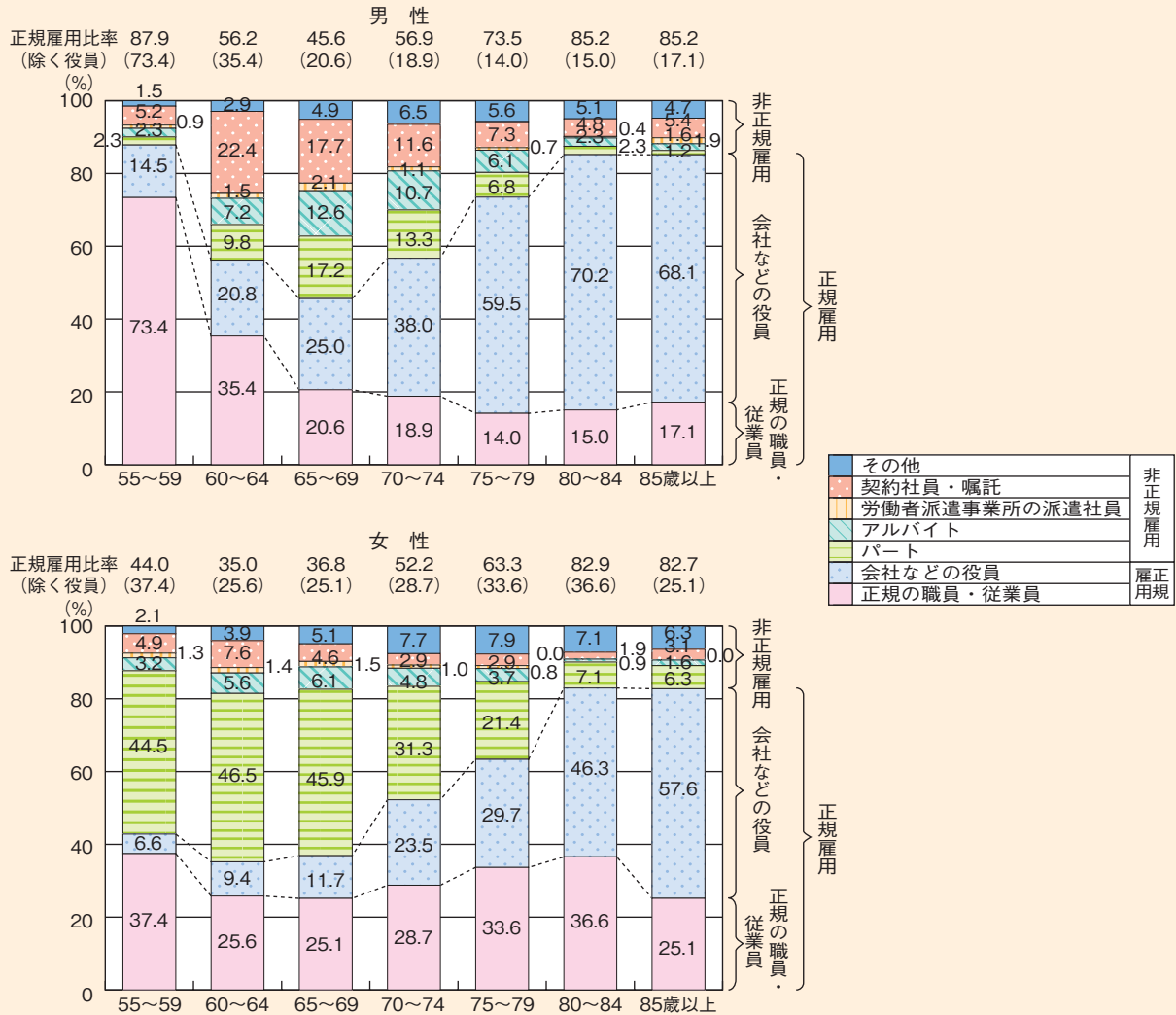
		(%)							
		失業している	収入を得る必要が生じた	知識や技能を生かしたい	社会に出たい	時間に余裕ができた	健康を維持したい	学校を卒業した	その他
男	総数 (55歳以上)	18.5	15.7	12.4	5.4	9.2	23.5	0.0	15.3
	55~59歳	52.5	13.3	7.2	4.7	2.4	5.9	0.0	13.8
	60~64歳	21.1	16.8	12.4	5.7	10.9	18.6	0.0	14.4
	65歳以上	7.7	15.9	13.8	5.4	10.4	30.6	0.1	16.1
女	総数 (55歳以上)	7.4	22.8	8.2	7.9	14.5	21.2	0.1	18.0
	55~59歳	12.2	25.1	8.8	10.0	17.8	11.0	0.0	15.3
	60~64歳	8.2	22.3	7.9	8.7	15.3	19.8	0.0	17.8
	65歳以上	3.0	21.2	8.0	5.6	11.2	30.5	0.1	20.4

資料：総務省「就業構造基本調査」(平成19年)

(注) 就業希望者とは、無業者のうち「何か収入になる仕事をしたいと思っている者」を指す。

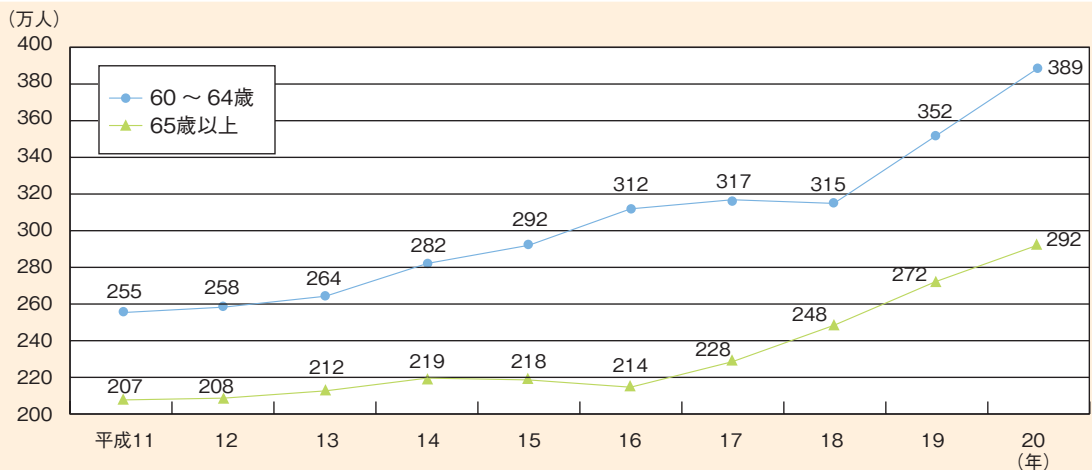
年到達予定者のうち、継続雇用予定者の割合は、平成17(2005)年に比較して、平成20(2008)年には、48.4%から73.3%と大幅に伸びている(図1-2-44)。

図1-2-42 高齢者の雇用形態



資料：総務省「就業構造基本調査」(平成19年)

図1-2-43 雇用者数の推移(全産業)



資料：総務省「労働力調査」(平成20年)

高齢者の雇用情勢をみると、平成20（2008）年の完全失業率は平成19（2007）年までは改善傾向が見られるが、世界的な金融危機を背景とした経済状況の悪化による影響を注視していく必要がある。また、就業率は60歳代前半で大きく上昇している。（図1-2-45）。

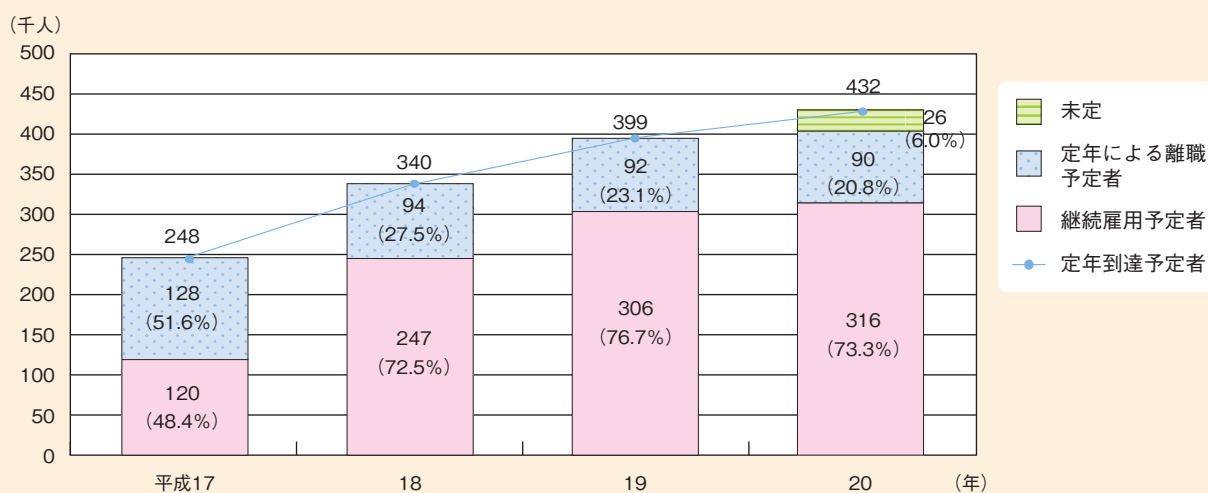
こと」については、「健康・体力づくり」が44.4%で最も高い。また、「就労したいが、努めていることは特にない」は21.6%、「就労したくない」も20.2%となっている。

### イ 中高年の4割は就労のために「健康・体力づくり」に努めている

「高齢期における就労に備えて、努めている

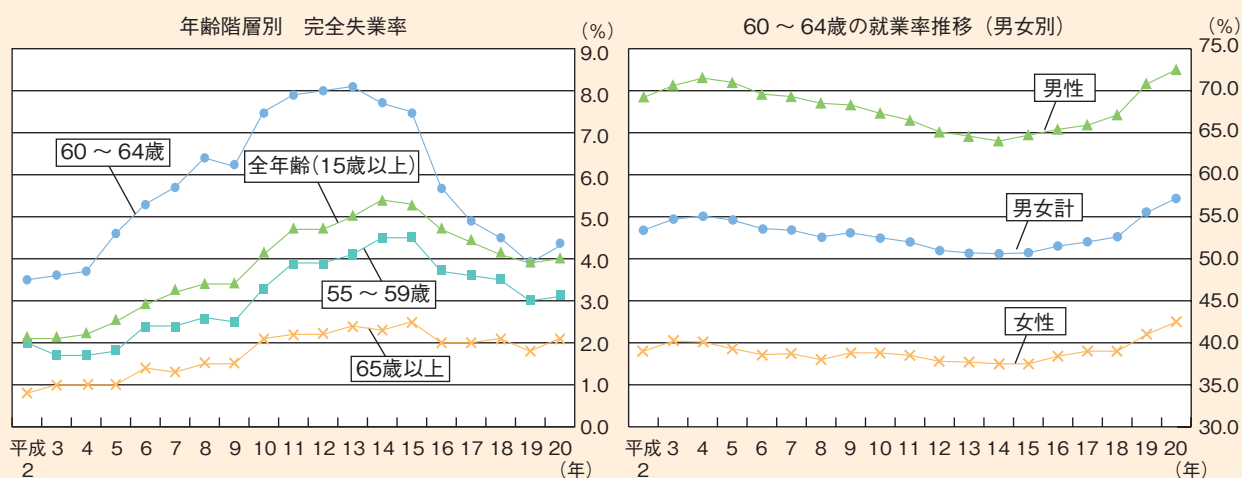
「高齢期における就労に備える上での不満や問題点」については、「特にない」が半数以上だが、具体的な項目では、「仕事が忙しくて休みや時間とれない」が17.1%で最も高い。（図1-2-46）。

図1-2-44 定年到達予定者等の状況



資料：厚生労働省発表資料（平成20年10月）

図1-2-45 年齢階級別にみた完全失業率、就業率



資料：総務省「労働力調査」  
 (注) 年平均の値。

(3) 性・年齢別の労働力率が平成18(2006)年と同水準で推移した場合、労働力人口は約10年で440万人減少する見込み

平成20(2008)年の労働力人口は6,650万人で、前年と比べて、19万人の減少となった。そのうち65歳以上の者は566万人(8.5%)となり、労働力人口総数に占める65歳以上の者の比率は、昭和55(1980)年の4.9%から上昇を続けている(図1-2-47)。

性・年齢別の労働力率が平成18(2006)年の実績と同じ水準で推移すると仮定して19(2007)年12月に厚生労働省雇用政策研究会が行った推計によれば、29(2017)年の労働力人口は6,217万人となることを見込まれ、18(2006)年に比

べて440万人減少することとなり、労働力人口総数に占める65歳以上の者の比率も10.6%となることが見込まれている(図1-2-48)。

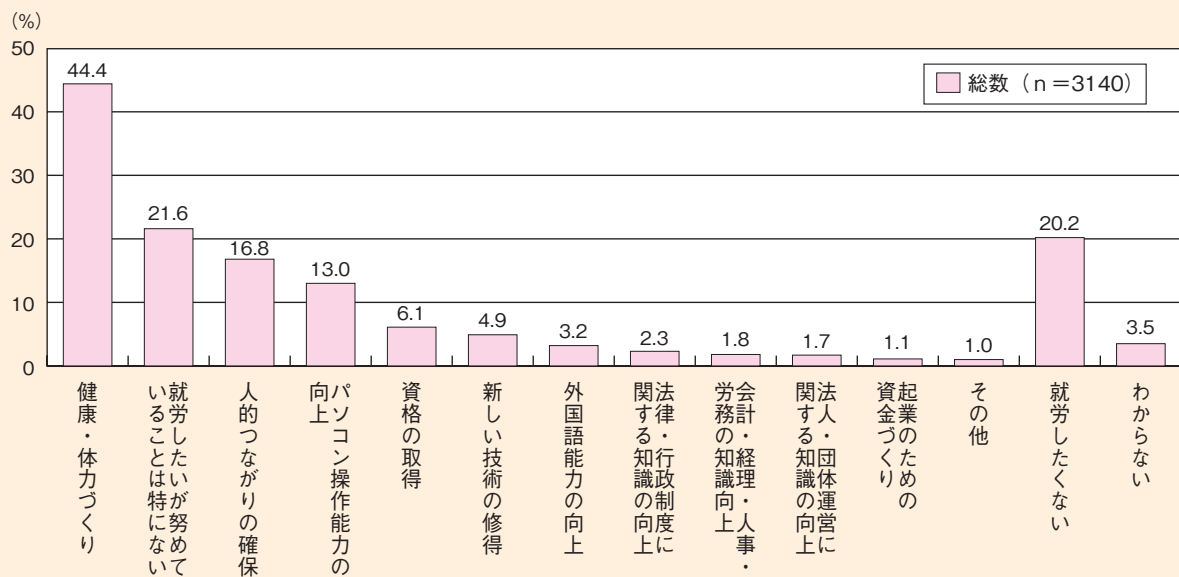
5 高齢者の社会参加活動

(1) 活発になる高齢者の社会参加

A 近所の人たちとの交流が弱まっている

60歳以上の高齢者の近所の人たちとの交流についてみると、「親しく付き合っている」は43.0%、「あいさつをする程度」は51.2%となっている。過去の調査結果と比較すると、「親しくつきあっている」が減少する傾向がみられる一方で、「あいさつをする程度」が増加しており、近所同士の結びつきが弱まっている(図

図1-2-46 高齢期における就労への準備(複数回答)



(参考) 高齢期における就労に備える上での不満や問題点(複数回答)  
(対象は上記設問で「就労したくない」「わからない」以外の回答を選択した層に対する質問)

特にな	57.5
仕事が忙しくて休みや時間とれない	17.1
費用がかかりすぎる	15.1
適当な教育訓練機関が見つからない	8.0
セミナーや講座等の情報が得にくい	5.0
職場や同業団体研修機会十分でない	4.6
優秀な講師や指導者が少ない	3.8
受講コースや資格効果が定かでない	3.5
わからない	1.9
その他	1.8

資料：内閣府「中高年者の高齢期に備えての意識に関する調査」(平成19年)より作成。

(注) 調査対象は55歳～64歳までの男女